

チドリ目カモメ科

コアジサシ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



今兼四郎撮影

対馬

全長28cm前後。夏羽では頭が黒く、くちばしは黄色で先が黒。冬羽では頭が白くなるのが特徴です。

夏鳥または旅鳥として少数が渡来します。広い川原・砂浜・湖や沼・荒地などに生息します。かつて繁殖もしていましたが、河川の改修などによる生息環境の変化で生息数が激減しました。

日中渡り鳥保護協定・日ソ渡り鳥等保護条約・日米渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥等保護協定の指定種です。

チドリ目ウミスズメ科

ケイマフリ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



今兼四郎撮影

全長37cm前後。夏羽では体が黒。目のまわりが白く、くちばしのつけ根にも白い模様があります。冬羽では下面が白くなります。地方名で「アカアシ」といわれるように、足が赤いのが特徴です。

夏鳥としてごく少数が渡来します。下北半島尻屋崎近くの島だけで繁殖しています。ネズミやキツネやカモメ類などの動物によって卵やひなが食害されるので、繁殖しなくなるのではないかと心配されています。

日米渡り鳥等保護条約の指定種です。 対馬

フクロウ目フクロウ科

コノハズク

青森県：B

環境庁：該当なし



今兼四郎撮影

小山

全長19~22cm、翼開長^{ちよう}42~49cm。フクロウ類中最小。耳の形をした羽を持ち、体色は赤褐色か灰褐色、目は黄色。昆虫が主食です。

夏鳥で白神山地、下北半島などの森林に少数が生息し、一般に夜ブッコッコと鳴きますが、白神山地の奥地では、昼でも鳴き声を聞くことがあります。巣は木の穴ですが、三戸町で巣箱に営巣した例があります。

鳴き声が仏法僧と聞こえるので声の‘ブッポウソウ’ともいわれています。

ブッポウソウ目カワセミ科

アカショウビン

青森県：B

環境庁：該当なし



菊池弘保撮影

小山

全長28cm、翼開長^{よくかいちよう}40cm。全体が赤色、紫色に輝き、腰に空色の斑があります。暗い森と水辺がある環境に少数個体が生息しています。

夏鳥で白神山地、十和田湖、下北半島などで見られ、霧や雨の日にキョロロ・キョロロ……と鳴き、魚、サワガニ、カエル、カタツムリ、昆虫を食べています。

雨の日によく鳴くため、農作物の不作と関連させ‘けがぶどり’ともいわれます。日中渡り鳥保護協定の指定種です。

ブッポウソウ目ブッポウソウ科

ブッポウソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



幼鳥 (村田孝嗣撮影)



小山みちる画

全長29cm、^{よくかいちよう}翼開長71cm。ハトよりやや小形、体色は緑青色、赤色のくちばしと足が目立ちます。飛ぶと翼が長いので大きく見え、^{はくほん}白斑が目につきます。

夏鳥で白神山地、十和田八幡平国立公園などの山林に少数生息しています。昆虫を食べ木の穴で営巣します。白神山地ではクマゲラの古巣にも営巣した例があります。

日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

小山

キツキ目キツキ科

クマゲラ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



宮川圭司撮影

全長45cm、^{よくかいちよう}翼開長66cm。全体が黒色で雄の頭上部は全体が赤で雌は後頭部が赤い。くちばしは黄色ですが、灰色っぽい個体もあります。

留鳥で白神山地、十和田八幡平国立公園などに生息しますが、姿を見ることはまれで国の天然記念物に指定されています。広いブナ林で繁殖し、アリやカミキリムシの幼虫など朽木の中にいる昆虫を食べます。巣穴は木の幹にあり、入口は縦長の長円形です。

保護には生息地域の森林保全が必要です。

小山

スズメ目サンショウクイ科

サンショウクイ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



島山高撮影

小山

全長20cm、^{よくかいちょう}翼開長28cm。すらりとした体形で背面が灰色、のどから腹部は白色。長い尾の上面、目の前後の線、くちばしと足が黒色。

夏鳥で各地の落葉広葉樹林に生息しますが出現がまれです。岩崎村の十二湖周辺では比較的多く見られ、ヒリヒリンと続けて鳴き、ゆるい波形を描いて飛びます。名前にある植物のサンショウは食べず昆虫を食べます。

日中渡り鳥保護協定の指定種です。

スズメ目モズ科

チゴモズ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



島山高撮影

小山

全長18cm、^{よくかいちょう}翼開長25cm。頭が青灰色、のどと腹部は白色で、^か黒色の過眼線があり、^{かんせん}眉斑がないのが特徴です。

生息地が限られ、弘前市の公園や寺社の林で毎年繁殖していましたが、近年まれになりました。夏鳥で6月上旬に渡来し、ギチギチギチと力強く鳴き、昆虫やカエルを食べます。チゴモズのチゴは稚児の意味です。日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

スズメ目モズ科

アカモズ

青森県：B

環境庁：準絶滅危惧



阿部誠一撮影

小山

全長20cm、^{よくかいちょう}翼開長27cm。頭上から尾まで赤褐色で腹部が白色。近年生息数が減少し、まれにしか見られなくなっています。

夏鳥で低木の混じる草原に生息、繁殖しますが、津軽地方の一部ではりんご園に営巣するものもあります。昆虫、カエル、ネズミ、モグラ、小鳥を捕食し、まれに、スズメバチやクマバチをはやにえにしています。

日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

スズメ目ヒタキ科

オオセッカ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



佐々木秀信撮影

對馬

全長13cm前後。体の上面は褐色で、背には黒い縦の模様があります。下面は淡い褐色をしています。

日本と中国大陸の南部に生息しています。日本の個体数は全部で1,000羽程度と推定されています。その半数近くの約450羽が三沢市の仏沼干拓地に生息しています。また、岩木川下流・^{びょうが}屏風山地区・むつ市の内田地区にも生息しているのが確認されています。ヨシ原に生息し繁殖する希少な鳥です。

スズメ目ホオジロ科

コジュリン

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



阿部誠一撮影

対馬

全長14cm前後。雄の夏羽は頭部からのどが黒く、背には赤褐色で黒い縦の模様があります。腹は白くて腰は赤褐色をしています。

夏鳥として平地の草原や湿地のヨシ原に生息しています。津軽地方の湖沼群と岩木川下流、下北半島にある湿地や休耕田とその周辺、小川原湖周辺の湿地、水田や農耕地や休耕田近くの草原に生息しています。年々生息地の草原や湿地が狭められ、個体数が激減しています。

スズメ目ホオジロ科

オオジュリン

青森県：B

環境庁：該当なし



畠山高撮影

対馬

全長16cm前後。雄の夏羽では黒い頭部とのどの間にある白いほお線が特徴です。首の後ろは白く、背には赤褐色に黒い縦の模様があります。

夏鳥としてごく少数が渡来します。小川原湖周辺や岩木川下流域周辺のヨシ原に生息しています。渡りの時期には農耕地や川原の草地などにも出現します。生息環境が狭められ個体数が激減しています。

日ソ渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定の指定種です。

③爬虫類・両生類

《概要》

(ア) 爬虫類

青森県には11種の野生種が知られています。日本産野生生物目録には87種がのっていますので、その13%弱です。もともと亜熱帯から熱帯にかけてすむ種類が多く、北になるほど少なくなります。

クサガメは西南日本で野生種として記録されていましたが、各地でペットとして飼育されていた個体が逃げて繁殖することになったと思われる。トカゲとカナヘビは北海道から九州にいたる広い地域に生息分布している種類で、本県でも低山地を中心に各地に広く見られます。ただし、トカゲは下北半島での近年の記録がなく、カナヘビよりは分布も生息数も少ないようです。タカチホヘビ・シロマダラ・ヒバカリはいずれも発見例が少なく、県の希少な野生生物種にランクされた種類です。それに対し、シマヘビ・ジムグリ・アオダイショウ・ヤマカガシは県内の各地に生息していて、多くの人の目に触れています。カエル類が好きなシマヘビ・ヤマカガシに対し、ネズミ類の好きなジムグリ・アオダイショウですので、そのことに注意してさがせば意外に見つけやすいと思います。マムシは有毒種として知られていますが、海岸を含む平地から山地にかけて県内全域に生息しています。

これらのほか、アカウミガメやオサガメが沿岸に偶発的に漂着し、捕獲された記録があります。また、アカミミガメ・イシガメ・スッポンが採捕された記録もありますが、ペット又は食用として飼養されていた個体が逃げ出したものと思われる。

(イ) 両生類

青森県には14種の野生種が知られています。日本産野生生物目録には59種がのっていますので、その24%弱です。爬虫類と同じく北になるほど少なくなる傾向がありますが、幼生がおたまじゃくしと違って水中に生活すること、親の体の表面にうろこがなく湿った皮膚をしていることなど、環境に適応したため爬虫類よりはやや多くなっています。それでも北海道と共通の自然分布種はアマガエルだけです。

クロサンショウウオは低山地から山地(八甲田大岳では標高1500m以上にも)にかけての池沼に産卵が確かめられていますが、局地的であることと減少傾向にありますので、希少野生生物としました。トウホクサンショウウオは低山地から山地にかけての止水域に産卵、幼生はその年の秋または翌年の夏頃に変態して陸上生活に入ります。ハコネサンショウウオは県内各地の山地の流水域で幼生が確かめられており、確実に繁殖していることがわかりますが、卵はまだ見つかりません。多くは幼生で冬を越し、2・3年目に変態を完了します。イモリは平地から山地の止水に産卵します。その年の秋までに変態しますが、親になっても水中に生活することが多いため、水質の変化に弱く、あつという間に見つからなくなることがあります。

アズマヒキガエルは平地から山地に広く生息していて、止水に多数が集まって産卵する傾向があります。変態直後の子蛙は黒くて小さく、数年をかけて親

になります。アマガエルは平地部を中心に生息していて、体の割に大きな声で鳴きます。水田などの止水に産卵します。タゴガエル・ヤマアカガエルは主として山地に広く生息産卵しているのに対し、トノサマガエル・ツチガエルは平地に生息産卵が見られます。後者の2種は各種農薬などの影響を受けることが多く、生息数に消長が見られます。ウシガエルはアメリカからの移入種ですが、来歴が古く、全国各地で繁殖しています。県内では十和田湖町・八戸市・尾上町・鶴田町・市浦村などで生息と繁殖が確認されております。幼生の期間が長いので大きくなり、時には15cmを越えるものもあります。シュレーゲルアオガエル・モリアオガエルは県内に広く生息しています。前者は主として平地に、後者は主として山地に生息しており、いずれも白い泡状物の中に黄白色の卵を産みつけます。カジカガエルは主要な河川の中・上流域に生息していて、その鳴き声が美しく、石の下などに卵塊を産みつけます。

カメ目イシガメ科

クサガメ

青森県：D

環境庁：該当なし



亀井陽太郎撮影

もともと西南日本を中心に野生種として記録されていましたが、性質がおとなしく、飼育しやすいため古くからペットとして飼われていました。これらの一部が捨てられたり、逃げ出して野生化し、繁殖することになりました。

小魚やミミズ・昆虫などを食べ、甲長20cmに達します。危険に出会った時など、肛門近くの腺からくさいにおいの液を出すことが和名の由来です。

奈良

トカゲ目ヘビ科

タカチホヘビ

青森県：A

環境庁：該当なし



向山満撮影

原始的な形や生態を残した全国的にも珍しいヘビで、体長は20～40cm。県内では1950年に十二湖で発見されて以来30年以上も見つかりませんでしたが、1982、1992年に三戸町で記録されました。その中には幼蛇が含まれていたので、繁殖していたと思われる。

これまで上記2か所からしか知られていませんが、えさとなるミミズや陸生ヒルなどが多い陰湿な森林や石垣裏などで見つかる可能性があります。

奈良

トカゲ目ヘビ科

シロマダラ

青森県：B
環境庁：該当なし



成田一哉撮影

灰色の地に鮮やかな黒褐色のまだら（横斑）模様があります。アオダイショウの幼蛇との混同に注意が必要です。体長40~50cmで、低山地の枯れ木や石などのすき間・樹洞などにすんでいることが多く、おもに夜間に活動しています。

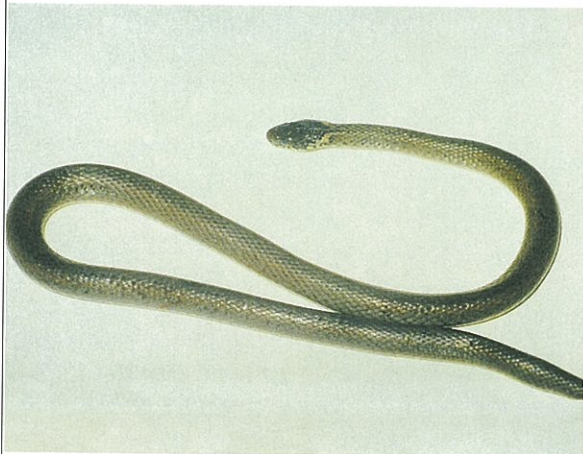
えさはカナヘビやトカゲなどとされていますが、その生活には未知のことが多く、これからの調査に期待されます。全国的に珍しいヘビといわれ、本県でも10か所ほどで確認されているにすぎません。

奈良

トカゲ目ヘビ科

ヒバカリ

青森県：D
環境庁：該当なし



笹森耕二撮影

体長が50cmほどの黒ずんだチョコレート色の地味な種類です。

青森県を北限として、陰湿な水辺の草の上などに生息していますが、人目につきにくいこともあって確認情報の少ない種類です。

かまれると「その日ばかり」しかもたないという風説に由来する和名が影響しているのでしょうか、実際は無毒のおとなしいヘビです。山地の水たまりなどに多いカエルやおたまじゃくしを好んで食べると言われています。

奈良